

春日権現験記 20軸 WA31-13

13-001



国立国会図書館

春日権現験記 20軸 WA31-13

13-002



WA 31
13
(13)

春日権現験記
巻6

114



国立国会図書館



勸修寺晴雅律師、右衛門大夫平正弘の母子に
侍賢門院の堀河の御子、哥人卷也の母子
なきと成りて、神仏の御申禮小娘

此れを、毎のこも小よ詠ふ思はり月や唇海
産那の御子に、此の御祈禱乃と、あ長谷寺小海に
は、孝詠乃と、あなまより、春日に、一鳥居の前よ
照派子すて、誕生無為乃と、此の御念、さるわたり



お乃子漸成人
志て十歳
たはむらひ
二八
乃
一





お乃子漸成念て十歳なるにこぞ乃し
 よりありて青蓮院に座す鳥羽院の
弟七玄乃を乃つり
 たり乃のち乃小童とよみおして物あしくつ
 病ふつてありけりも病にあつる者驗七を請て護
 身と誓せし乃家母の女に神託ありを茲我板本
 此明神や春日大明神乃御使まゝ乃のを當れ一
 鳥井乃おして託生を乃之後大明神仕者をつけて
 守護給ふるよし此は乃の御本さおは乃仍し
 乃母一乃や乃給この時父母と小信仰して、乃
 乃のにおす魚乃大明神西乃乃きす乃半乃り
 乃のち病をら乃乃い乃忠

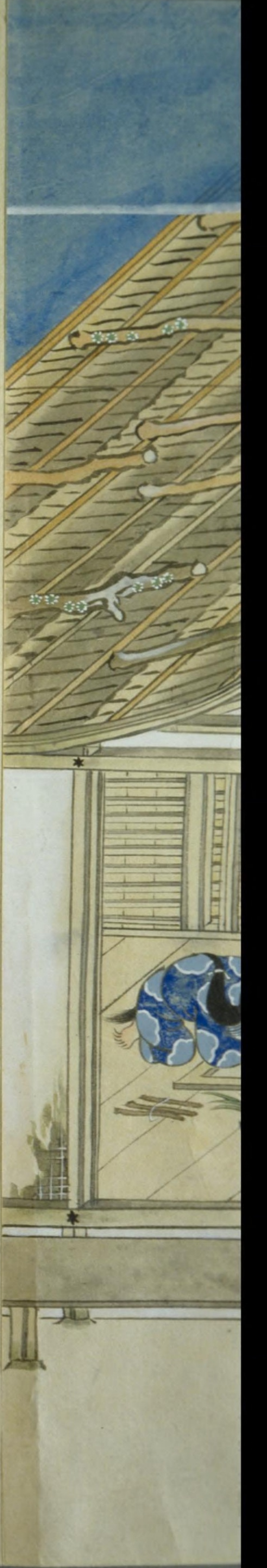


おくまふ母と如き誓しと母一人のさう



山の木す魚を以大明神に祈りておまけすこ半はり
すのち病をらすと祈りて急也





果く多父母と始皇誓して母不入のこころ
 まりて思ふうの南都乃志と申あいなつ
 小あうら決み勅諭の雅賢僧都節也り
 おまてこの小童成ていふ年存て志大始節
 満いせ多きものる禮を仰ゆ申なくして他所
 つまらざる年申に申法て母あうら
 南都へ満りに見れ若字の所あそ大明部
 俄小純して志大始節を小童言居乃ら
 誕生のち書教信者をはなれと護する所也
 老らく満いせ多き次子新うして我まきせよ
 さらぬ此童もより耶曲護代とて護能授
 君平すふよりてかり母言のちよりあうらこれか
 其心此時小童雲山御志五葉松つよと候
 をあそ三反うらぬお母又言汝のりト事あ糸
 このいしひさうふ多あたらしよはかきなりとあうら
 本道成てく魚しぬみ成るも法人奇異の成りて
 めんくは汝をかりもりそ後雅賢僧都つ年く
 志大始節まかりし出家し多あは贈物とていしある
 権律師と任す中後和を病よりくることありまはは
 論一説言して花信法師を厚師とて事當社也

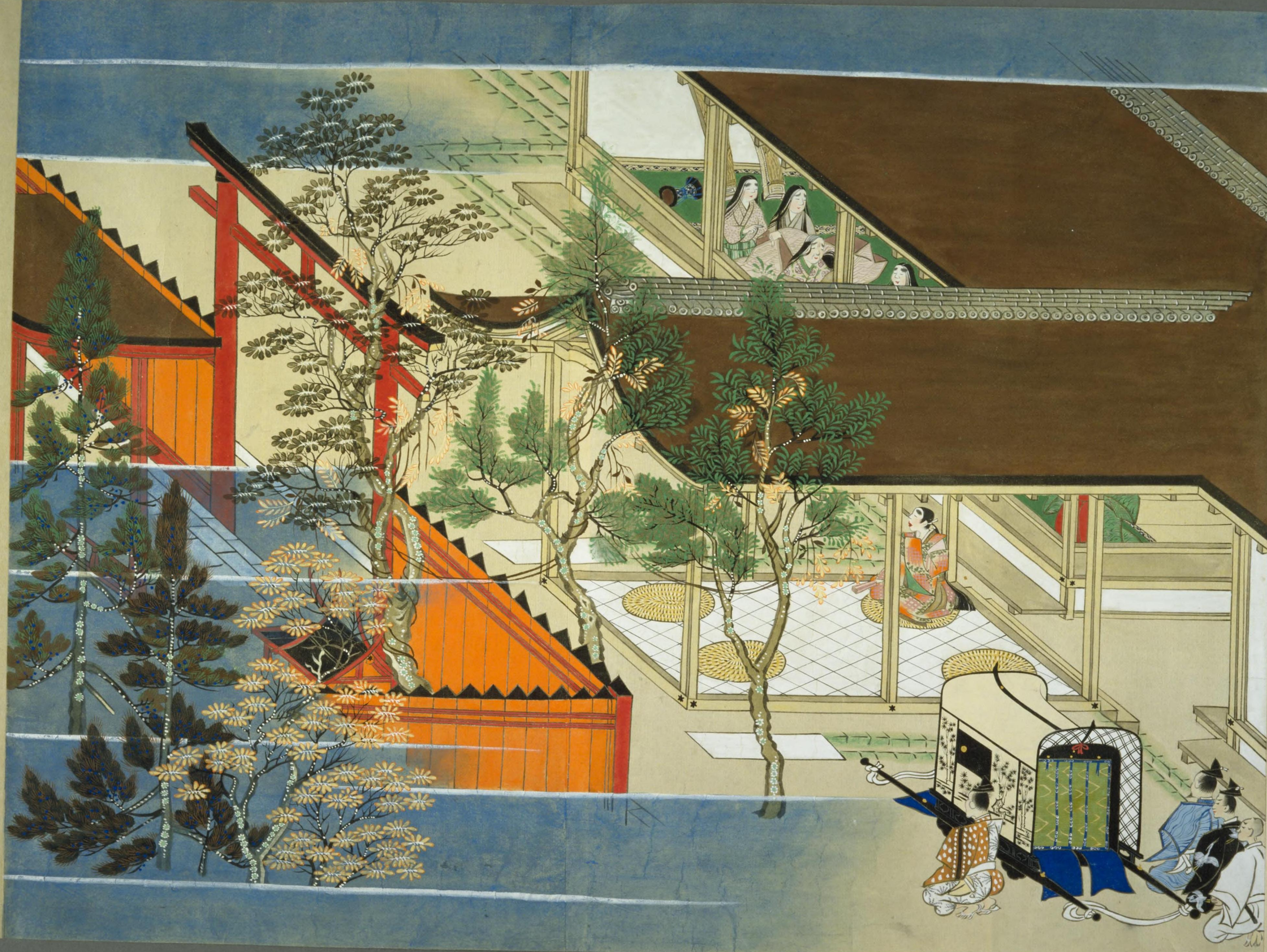




其言のまかりし出家し事後ハ睦雅となんしある
 権律師ハ但中ノ故ハ病ヲうくることあり事ハ能満
 論ハ公言ハて範信法師を奉仰ヒ一市當社ニ
 テ供養出掛け色ハ病ハあらハ恙ナリ故律師故
 小ハ兩世して天下獲念房也若ク思摩山ニ去ルヒ
 比方ハ寛政二年の秋ハ子ニ宣説ヒ其口ハ仙傳と云ハ
 て経巻ニハ眠るべく子ニとりてわてる事

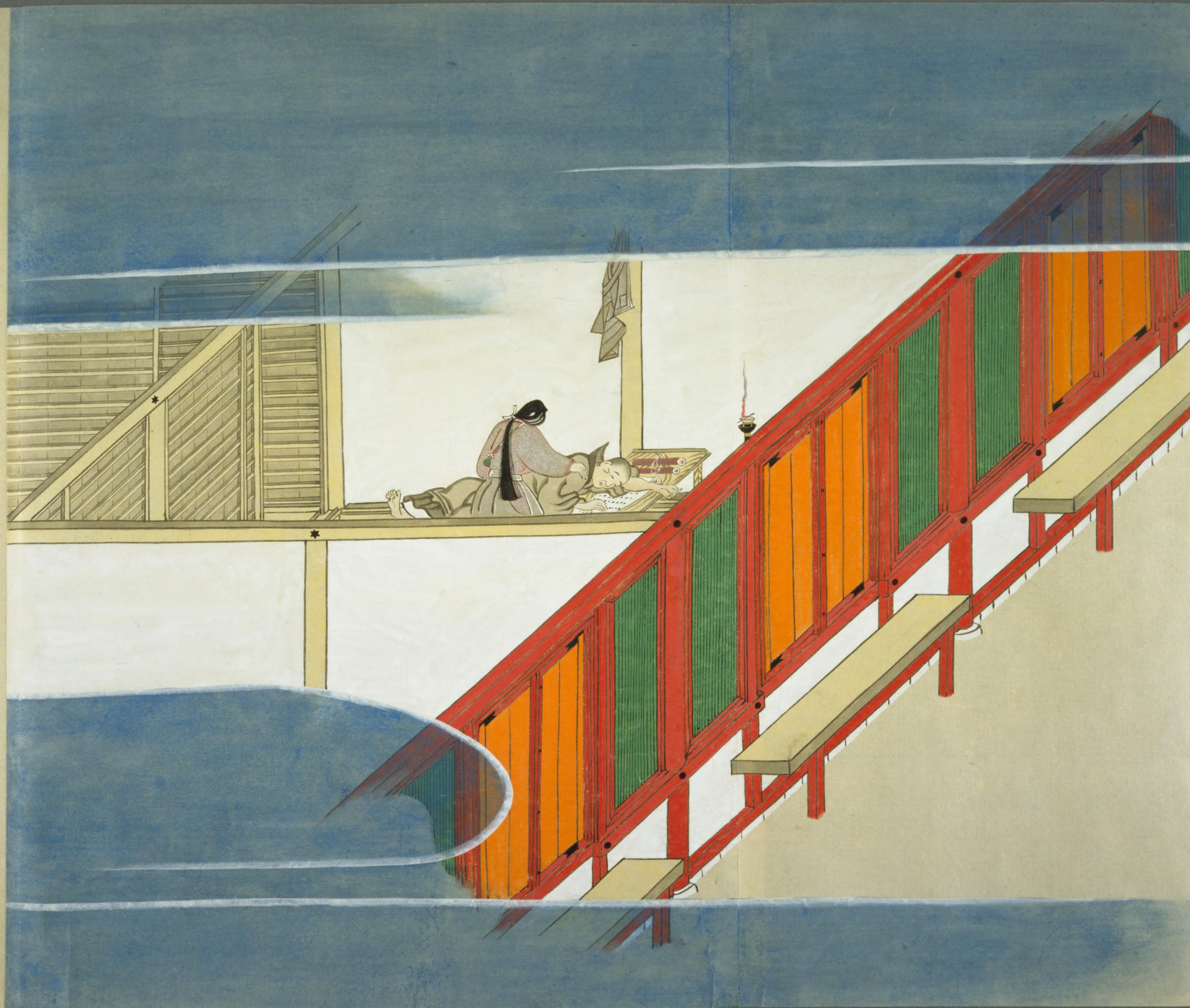


真福寺乃角院勝給僧都安寛香中維麻子合其心
清師とつあんとあの中をまゝりわく清師清師恩



小い所世して下獲命房中若あそ思存山とまらぬますこ
はらの寛政二年の落し子ま室深む其口は仙号ととる人
て経唯しあ眠るこく次ととりたれとる年

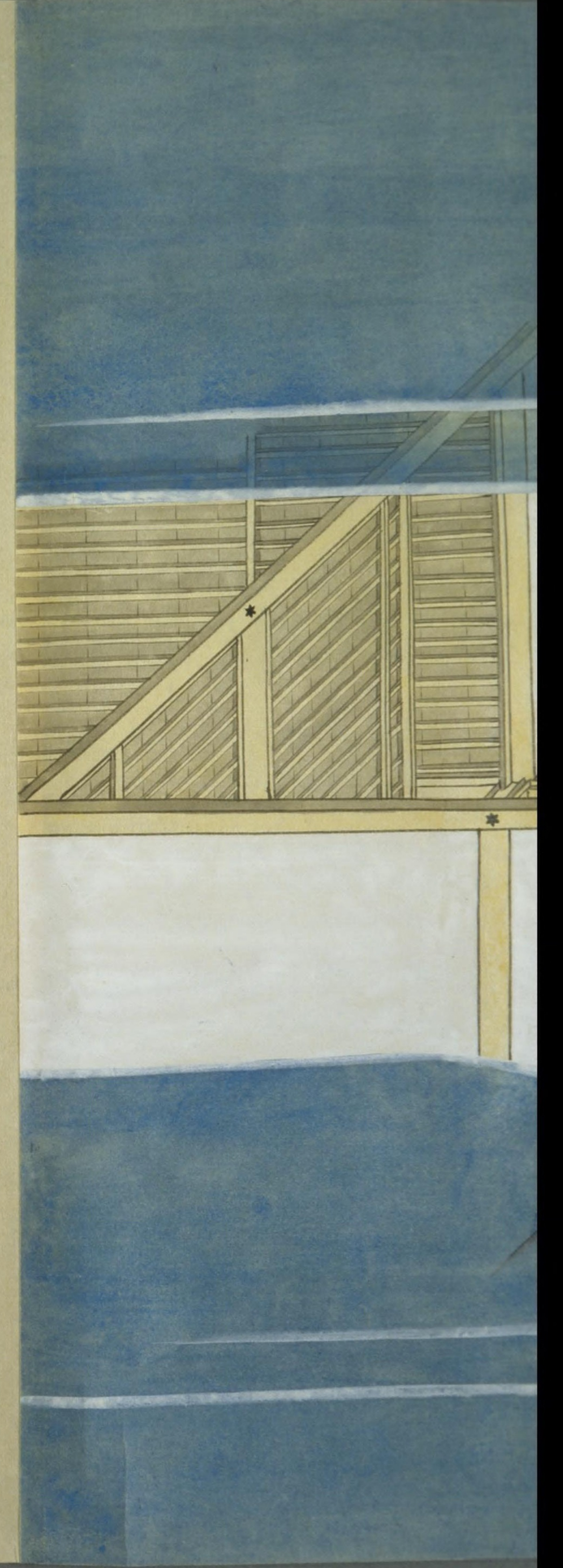
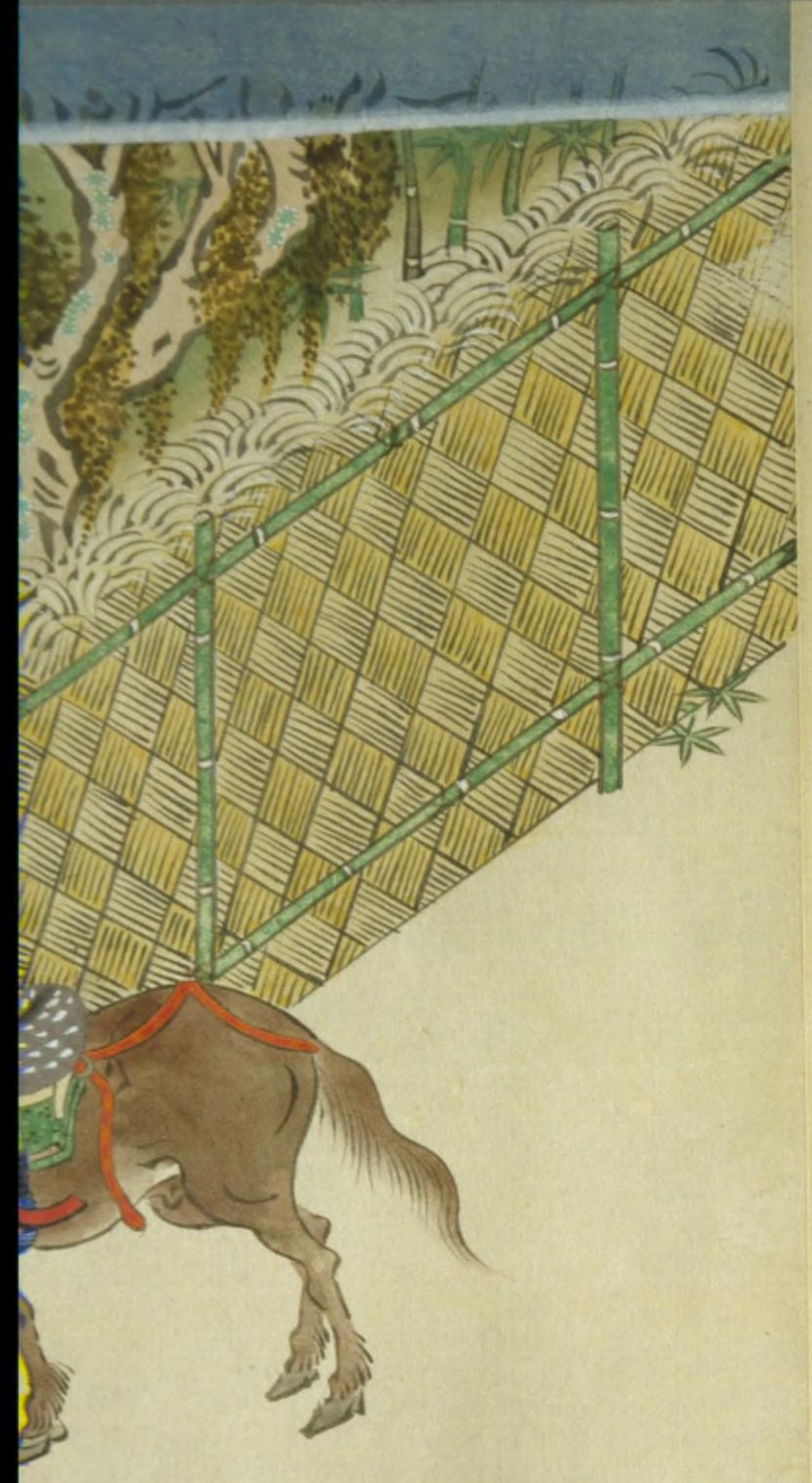




晴霞とるわんを降降すつわくは流高みと見え
 東くそくわたり也た海はれり

奥福寺別院并院小増文 誠泉房 己小僧也なり
 大活音事あり夏は喜川に往房小下僧也なり
 今我いふをわんを小井かたり志きす見り
 3本よかの所ありとまし心まりはれ先師の

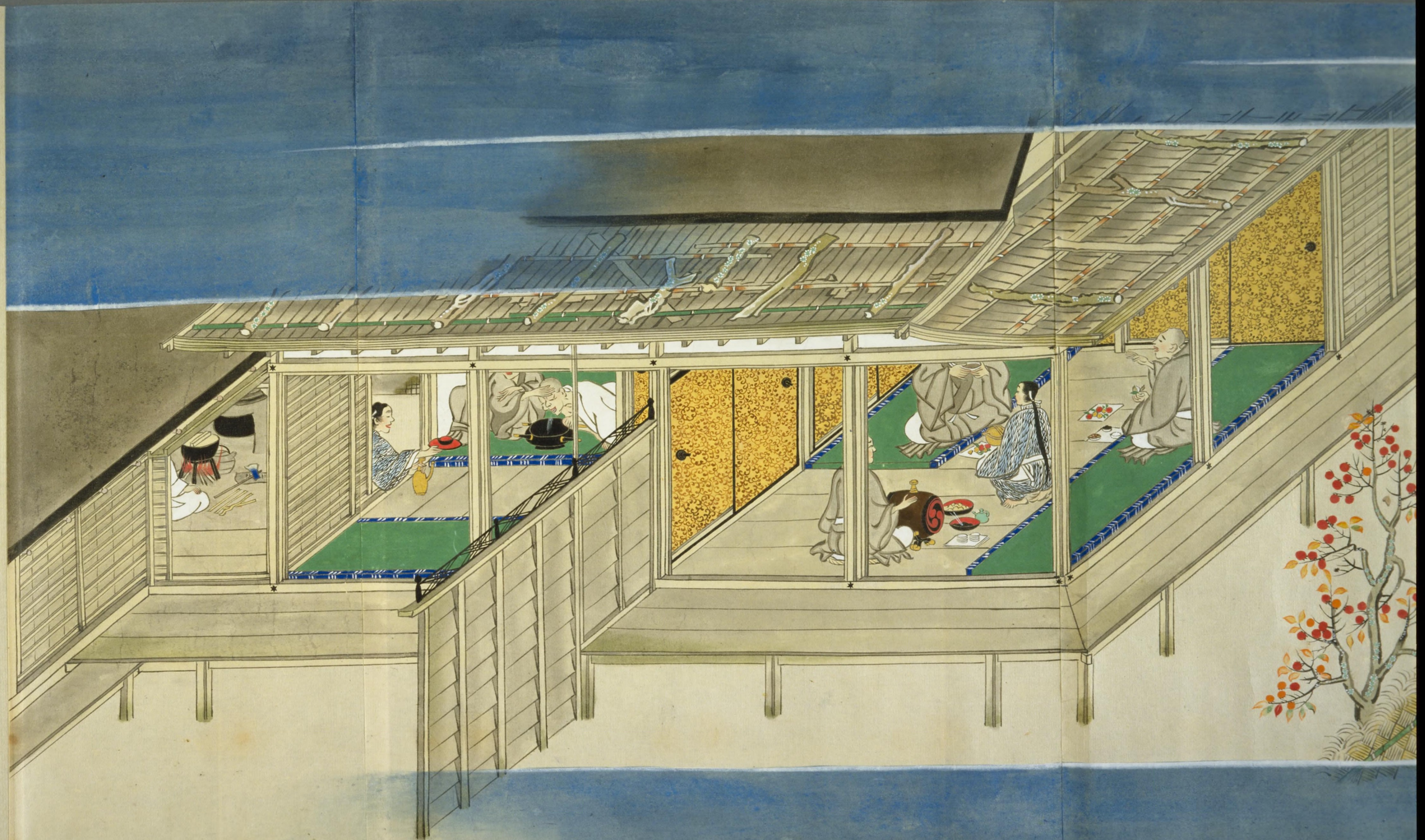




奥福寺別院并院小僧交 誠泉房 己い不不徳徳免免たり
 大活音大活音乃乃夏夏北北志志川川住住房房小小下下僧僧志志不不交交成成一
 乃乃成成いいみみててわわををいい小小井井かかりり志志をを一一すす免免ととしし
 三三本本よよかかのの所所乃乃ととりりままししてて心心ををままりりとと成成成成先先師師の
 十十三三年年ままてておおのの所所よよままささんんやや思思だだりりふふれれり
 円円香香林林乃乃三三路路円円朋朋のの傳傳ききををとと誣誣成成すす母母
 乃乃ふふ二二ををすすくくききねねとと志志をを一一りりぬぬ系系わわくくしして
 昔昔よりよりおおななわわりりをを覚覚わわりりししつつ成成成成一一の
 時時いいりり酒酒成成のの乃乃れれとと志志をを一一ぬぬののややままたた二二海
 采采くくてて音音ををたたれれ乃乃やや過過年年たたりりししききああららうう
 本本とと乃乃証証成成得得業業乃乃ふふかかををりり使使ををりりててちちれれ病病牙
 ををすすままててゆゆききををいい所所社社のの一一切切經經免免すす一一學學乃乃をを
 いいをを領領成成乃乃わわををるる乃乃并并院院乃乃住住房房一一行行乃乃一一れ
 乃乃よりより又又れれ乃乃やや乃乃たたりり乃乃り



かくありはたのむおこし
 後もなかりし苦しき
 新七

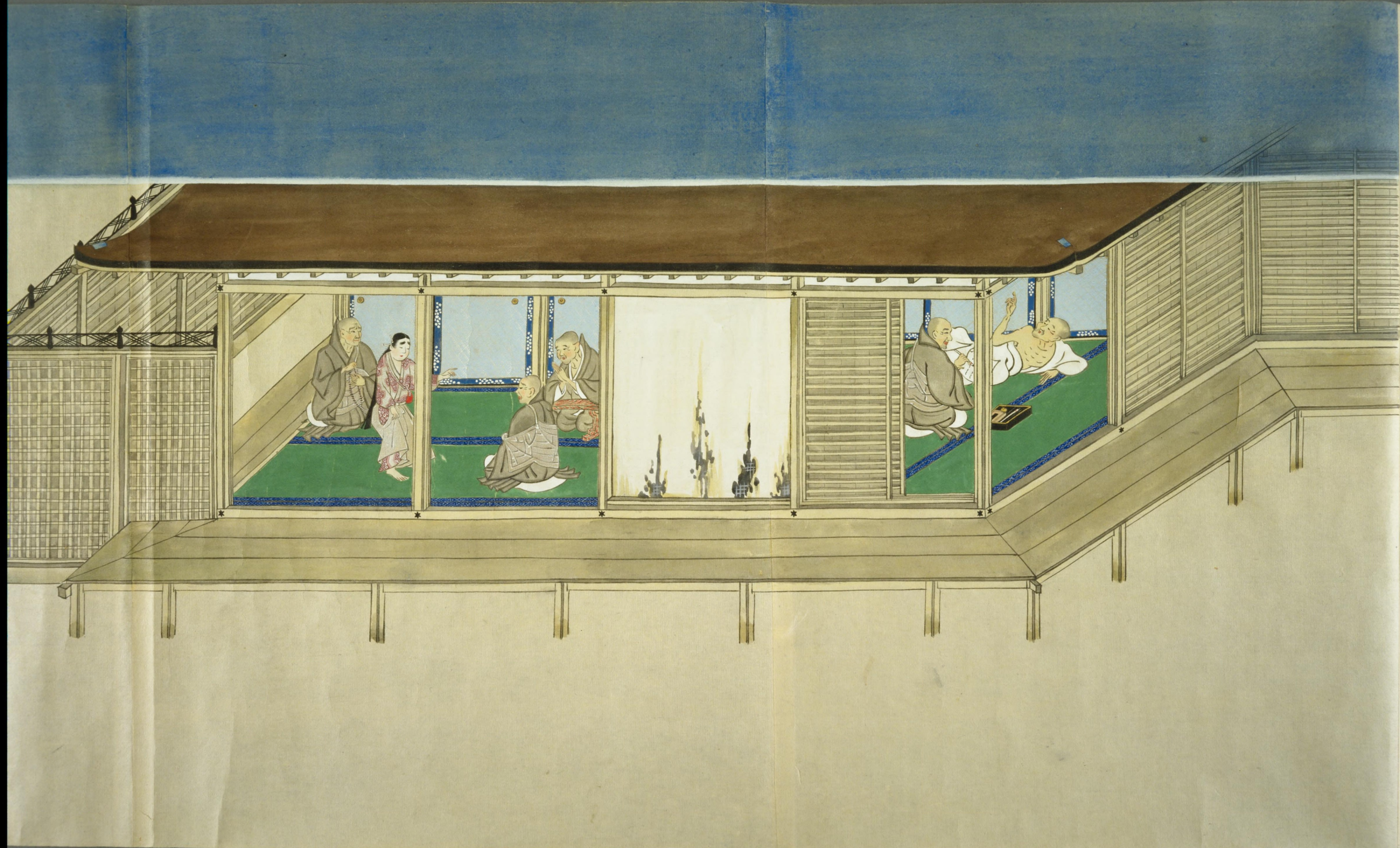


かゝるありは成るやふしおこぬなりし初て
 後にもあつたり思苦痛を分るなまをせぬ
 心のそなたも我輩土生れのまゝなり寺年
 成る人あゝ系大明神を念ふてふりてふた
 豊法流派をまゝ多事 彦彦とてふりてふり
 小なるさし志を志す山成にまゝてふりて
 世にむしては房の初なりむきまひ初てん
 世にむしては房の初なりむきまひ初てん

おとぬふをまゝにみまはものゝかゝる黄も
 かなまらるおとよ天升の上は物拍子をうりて
 流三度まで流すよ又三度及らぬ後だのそ
 女房のうりてまゝ系と聲をまゝて

や一代まゝの初中後をうり思はれ初て
 とうとびく後又初てまゝ系

由石波逆に改令の先降難向御都る但
 也彌如古れ唯後論の文大明神の御多
 心寄るまゝて思はれ初てまゝ系
 築石のまゝに人をもまゝ系房主あはれま
 くれのまゝにまゝ系志を志す事のまゝなる
 まゝ系まゝにまゝ系御法を御結しまゝ系
 捨て御まゝにまゝ系初てまゝ系



春日権現験記
 第二十軸
 常の事なる處



